

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成27年度第3回大学情報システム研究委員会議事概要

I. 日 時：平成27年9月14日(月) 14:00から16:00まで

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 参加者：岩井委員長、小川委員、藤本委員
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

今回は、「1. 授業の有効性を点検・評価するための学修ポートフォリオ活用の留意点について」整理した内容の確認と「3. 学修ポートフォリオによる学生の負荷軽減のための教学マネジメント対策について」の項目について検討をすすめた。

3の教学マネジメント対策は、授業科目配置の見直し、学修支援体制・環境の整備、学修時間の把握、重なる科目の調整、アクティブ・ラーニングの取組みの意見交換などの項目が提案され、以下のような意見があった。

1. 「1. 授業の有効性を点検・評価する学修ポートフォリオ活用の留意点」に関する意見

- ① 教員全員が3つのポリシーや学修到達目標等に関する共通認識を持つことが必要である。それには、カリキュラムマップやツリーの作成が必要になってくる。カリキュラムマップは、ディプロマポリシーや学修到達目標を達成するための科目を体系化したもので、カリキュラムツリーは科目の年次配当などの順序性を視覚化したものである。
- ② その上で、ポートフォリオの中に学修成果を蓄積して視覚化する仕掛けとして、シラバスにマップやツリーに準拠した各科目の学修到達目標と評価方法を明示することで、教員自身の振り返りと学生自身の振り返りが促進される。
- ③ 学修到達目標、マップやツリー、シラバス、授業実践とポートフォリオが一連の流れとしてPDCAの観点から見える化される必要がある。

2. 「3. 学修ポートフォリオによる学生の負荷軽減のための教学マネジメント対策」に関する意見

- ① カリキュラムポリシーやディプロマポリシーと科目を対応付けることを行っているが、連動されておらずポートフォリオに反映されていないため見直しが行われていないので、どのように反映させて改善につなげるのか、例があればわかりやすいのではないかと。
- ② 負荷を軽減するためには、全科目全教員に導入すると言う場合もあるが、最初は基礎の必修科目から始めて基礎演習やゼミなど4年間を通じて行う程度とするべきで、学生・教員に負担がかかりすぎないようにポートフォリオの導入をできるところから行う必要がある。
- ③ アクティブ・ラーニングでポートフォリオを活用するためには、授業科目の配置やカリキュラムの見直し、教員間連携の促進を図る必要がある。

3. その他の意見

- ① 入試形態の変化を踏まえてアドミッション・ポリシーの見直しが求められると思われるが、ポートフォリオはその見直しをするときの参考資料になるのではないか。
- ② IRは、大学の経営的な側面から科目統合、チームティーチングなどを検討する上で重要になると思われる。例えば、カリキュラムマップでの授業の位置づけから教員の適正配置に基づく人事要求の基礎資料として必要になる。
- ③ ポートフォリオの活用を教員が主体的に受け止められるようにティーチング・ポートフォリオ作成の必要性について触れておくことが望まれる。
- ④ ポートフォリオを踏まえて授業の振り返りを行うことで、系統的にデザインするなど授業をより良くすることに役立てることが可能ではないか。
- ⑤ ティーチング・ポートフォリオについては、「4. 教職員の意識変革を推進する取り組みの留意点」にある2項目を移動させてはどうか。「2. 教育プログラムの効果を学部単位で点検するための仕組み」のIRの前に新たにティーチング・ポートフォリオを設定してはどうか。

V. 今後の検討の進め方について

次回の委員会は、11月20日に開催を予定することにした。

今回は、ティーチング・ポートフォリオの在り方について議論を進めることにした。